

一般演題（口演）

2025年11月15日(土) 14:30 ~ 15:20 第6会場

[O25] 一般演題（口演） 25 臨床研究2

座長：深澤 貴子(磐田市立総合病院消化器外科), 坂本 義之(独立行政法人国立病院機構弘前総合医療センター消化器外科)

[O25-3] サーベイランスにおける初回腺腫数と異時性大腸腫瘍の関係

木村 聖路¹, 西谷 大輔¹, 佐藤 和則¹, 樋口 博之^{1,2}, 藤原 沙映^{1,2} (1.青森労災病院消化器内科内視鏡科, 2.弘前大学消化器血液内科)

【目的】初回腺腫数はガイドライン上本邦版で3個以上、US版,ESGE版で5個以上あれば3年間隔が推奨される。今回初回腺腫数による異時性腫瘍の発生率を比較した。

【方法】サーベイランスがなされた合計2133例（年齢65.9歳、性別2.10:1、期間81.3月、回数4.14回）の大腸腺腫患者を初回1-2個のA群1527例と3個以上のB群606例に分類した。微小腺腫放置患者952例をA1群730例、B1群222例、低リスク腺腫（10mm未満かつ低異型）切除患者656例をA2群464例、B2群192例、高リスク腺腫（10mm以上または高異型）切除患者525例をA3群333例、B3群192例、全腺腫切除患者1181例をA4群797例、B4群384例に分類した。異時性腫瘍をNon-advanced lesion（低異型腺腫）、Advanced lesion（高異型腺腫、癌）に分けて発生率を比較した。

【結果】Non-advanced lesionの最終頻度はA1群16.9%、B1群30.6%（ $p<0.001$ ）、A2群26.5%、B2群32.3%（N.S）、A3群25.8%、B3群35.4%（ $p<0.05$ ）、A4群26.2%、B4群33.9%（ $p<0.01$ ）であった。Advanced lesionの最終頻度はA1群6.8%、B1群10.4%（ $p=0.08$ ）、A2群5.2%、B2群13.0%（ $p<0.001$ ）、A3群10.8%、B3群15.6%（N.S）、A4群7.5%、B4群14.3%（ $p<0.001$ ）であった。異時発生した異時性腫瘍における男女比率はA1群 1.79:1、B1群 4.06:1（ $p<0.01$ ）、A2群 2.34:1、B2群 4.44:1（ $p<0.05$ ）、A3群 1.84:1、B3群 5.53:1（ $p<0.001$ ）、A4群 2.09:1、B4群 4.97:1（ $p<0.001$ ）であった。異時性浸潤癌はA群14例（0.9%）、B群16例（2.6%）でB群に多かった（ $p<0.01$ ）。男女比率はA群6:8、B群14:2、局在は右側:左側でA群 10:4、B群6:10、形態は2型：2型以外でA群9:5、B群5:11、深達度はT1:T2-T4でA群4:10、B群9:7であった。A群は6割が女性、7割が右側、7割が進行癌、B群は9割が男性、6割が左側、6割が早期癌であった。

【結論】3個以上腺腫患者は1-2個腺腫患者よりNon-advanced lesion、Advanced lesion共に最終頻度が高率で、その場合男性に異時性腫瘍が発生しやすく、女性に発生しにくい。異時性浸潤癌も3個以上腺腫患者に多く、その場合3個以上腺腫患者は男性、左側癌、T1癌、1-2個腺腫患者は女性、右側癌、T2以深癌が発生しやすい。